

天王寺動物園におけるチンパンジー逸走事案に関する報告書

令和5年11月14日

地方独立行政法人天王寺動物園

1. はじめに

当園は、地方独立行政法人として令和3年4月1日にあらたに発足して以降、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指し、動物福祉に重点を置いた動物園運営を行ってまいりましたが、今般、飼育動物であるチンパンジーが逸走するという動物園としてあってはならない事案を発生させてしまいました。

このことにより、大阪市民をはじめとする来園者の皆さま、関係各所の皆様に多大なご迷惑をおかけしましたことを心よりお詫び申し上げます。

法人として今回の事態を重く受け止め、今後二度とこのようなことを起こすことのないよう、そして来園者の方が安心して動物園をお楽しみいただくことができるよう、職員一人一人がそれぞれの職務に対する責任と自覚を持ち、再発防止に努めてまいります。

地方独立行政法人天王寺動物園

理事長 山中 諄

2. 概要

令和5年10月17日（火）午前10時15分頃、仮チンパンジー舎の屋外展示場と動物用通路（寝室と屋外展示場をつなぐ通路のこと。以下、「シュート」という。）においてチンパンジー同士の顔合わせを実施していた際に、柵越しに闘争が始まったためシュートにいた個体を寝室に移動させようとし、当該個体を確認したところ、シュート外に逸走し屋外展示場の上に出ていたもの。

3. 経過

10時15分頃 チンパンジー逸走
10時18分 チンパンジー逸走の第1報が入り、猛獣脱出対策本部を設置
10時20分 警察へ通報
園内放送や職員の声掛けにより来園者へ園外避難を呼びかけ
10時35分 捕獲を行っていた獣医師（42歳・男性）が逸走したチンパンジーに左ほほをかまれ、救急車出動を要請
10時36分 来園者の退園完了
10時37分 動物園の臨時休園を決定
10時58分 天王寺動物園ホームページへ掲載
11時09分
～ 14回（うち命中数回）麻酔銃により捕獲を試みる
13時30分
13時32分 逸走したチンパンジーを捕獲
13時38分 捕獲したチンパンジーを獣舎へ収容
13時54分 本部閉鎖

4. 原因

今回、チンパンジーが逸走した箇所は、仮チンパンジー舎のシュート上部にある縦約20cm、横約72cmの隙間部分（別紙参照）である。この隙間については、既存獣舎とシュートを隔てる扉を上下させるために必要であるため、シュート全体を獣舎から約20cm離して建築しており、当該の隙間については、現地において確認していた。

また、令和5年7月15日午後の引き渡し前のチェックで担当飼育員、獣医師、施設課職員のものべ8名で施設を確認しており、その際、当該の隙間からチンパンジーが手を出して扉を上下させるためのワイヤーを触るであろうと予見し、ワイヤーの左右約70cmの幅は、鉄板で塞ぐ措置を講じた。しかしながら、それ以外の場所については、目視できる範囲では塞ぐ必要がないものと判断し特段の措置を講じなかった。

以上のことから、原因は当該施設の確認を行った職員の認識不足によるものであると考える。

なお当該獣舎は、対応策として逸走した箇所を含め扉の開閉に支障のない計8箇所の隙間を即日埋める措置を行った結果、以後の使用において問題は生じていない。

5. 今後の対応

当該事案を受け、事案の重大性に鑑み、二度とこのような事態を発生させることのないよう、法人内のリスク管理委員会で検証検討を重ね、以下のとおり対応していくこととする。

(1) 獣舎整備について

- ① 新規建築改修時には、他園館の同種の施設調査を徹底して実施する。
- ② 新獣舎の設計については、公益社団法人日本動物園水族館協会（以下、「JAZA」という。）作成の「適正施設ガイドライン」に沿った設計を実施し、特に動物の逸走対策に配慮する。
- ③ 特定動物飼養施設については、動物の愛護及び管理に関する法律を所管する大阪市の「特定動物の飼養施設に係る審査基準」に基づき、設計施工を引き続き行う。
- ④ 引渡検査は、当該獣舎で飼育予定の動物に関わる全ての職員（動物飼育専門員、獣医師）の他、第三者として経験のある他園館の職員も立ち合いのもと実施する。特に逸走防止の観点からの確認を重視する。
- ⑤ 年2回実施している施設の点検についてもこれまで以上に逸走防止の観点から強化し、年に1回は管理監督者を交えて施設の点検を行う。

(2) 猛獣脱出訓練と研修

- ① これまで2年に1回実施していた猛獣脱出訓練については、事前に職員には周知せず、シナリオのないブラインド訓練を実施する。また、あらたに年1回は想定される複数の動物逸走について、机上訓練を実施する。
- ② 2年に1回、二度と動物逸走事故を起こすことのないよう職員への注意喚起を促すため JAZA 安全対策委員会による研修を実施する。



写真-1 寝室側壁面～シュート上部鉄骨

(使用開始前までの確認)

- ・使用開始前に隙間(約20cm)を飼育担当・獣医師・施設担当にて現地確認
- ・隙間からチンパンジーの手が触れる可能性がある扉ワイヤ付近に鉄板を設置
- ・現地確認時、手のみが出るとの考えで扉ワイヤに届かない大きさの鉄板を設置

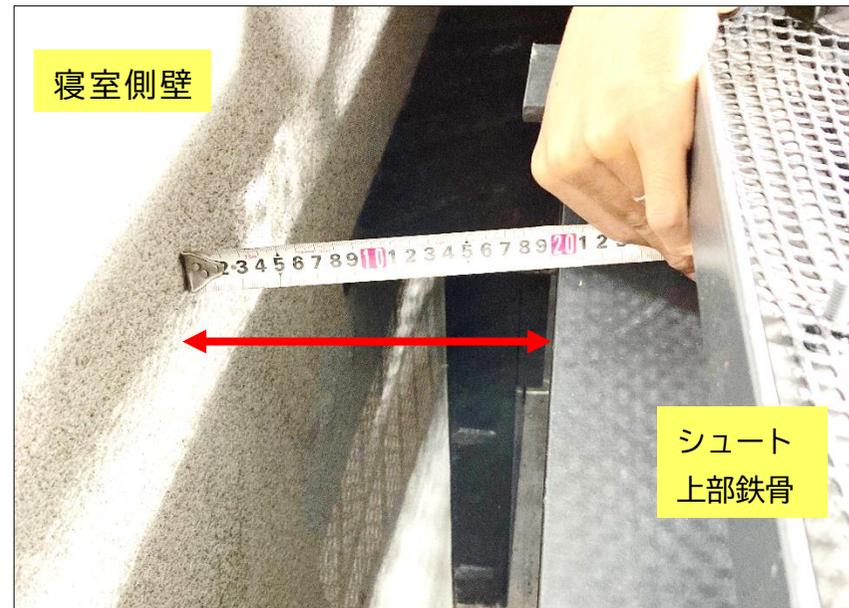


写真-2 寝室側壁面～シュート上部鉄骨(拡大) 処置前



写真-3 寝室側壁面～シュート上部鉄骨(拡大) 処置後

(処置後)

- ・扉ワイヤ付近以外のすべての隙間部分を鉄板にて防護処置済み